

富山県における孤独・孤立対策のこれまでの取り組みについて

富山県厚生企画課

1 孤独・孤立について

社会構造の変化（単身世帯の増加、働き方の多様化など）により、孤独・孤立問題の深刻化が懸念されるなか、R6. 4. 1「孤独・孤立対策推進法」が施行され、地方公共団体は孤独・孤立対策について、「国及び他の地方公共団体との連携を図りつつ、その区域内における当事者等の状況に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する（法第4条）」こととされている。

孤独・孤立の状態とは（孤独・孤立対策推進法における定義）（破線内：内閣府資料より抜粋）

孤独又は孤立により心身に有害な影響を受けている状態

「孤独」（一般的な捉え方）

主観的概念であり、ひとりぼっちと感じる精神的な状態を指し、寂しいことという感情を含めて用いられることがある

「孤立」（一般的な捉え方）

客観的概念であり、社会とのつながりや助けのない又は少ない状態を指す

孤独・孤立対策とは（孤独・孤立対策推進法における定義）

孤独・孤立の状態となることの予防、孤独・孤立の状態にある者への迅速かつ適切な支援、その他孤独・孤立の状態から脱却することに資する取組

→「望まない孤独」と「孤立」を抱える方々が政策の対象

「一人であること」自体が直ちに問題ではなく、悩みや困りごとが生じた際に一人で抱え込んでしまうことで、複雑化・深刻化することが問題

→一人で抱え込んでしまうことで悩みや困りごとが複雑化・深刻化することを防ぐためには？

日常にある「つながり」が必要

（参考）

孤独・孤立や人と人とのつながりの希薄化が与える影響

◆健康上の様々なリスク

- ・社会的孤立は、喫煙・肥満・運動不足よりも健康上のリスクが高い
- ・社会的つながりが弱いと1日15本の喫煙と同程度の健康への悪影響がある
- ・他者との交流頻度が週1回未満だと認知症の発症リスクなどの健康リスクが上昇

◆自殺念慮、自傷行為への大きな因子

- ・孤独・孤立や社会的支援の欠如が自殺念慮や自傷行為のリスクにつながる

◆日常生活における様々な経済的・社会的活動の意欲減退

- ・3～4割程度の若者が、孤独を感じているときは、感じていないときに比べて、「外出」「学業・仕事」「家事・育児」に対する意欲を減退させるという調査結果
- ・職場における支援的で包摂的な人間関係は、仕事に関する満足感、エンゲージメント、能力の発揮に関連しており、キャリアアップ、収入など経済的安定性にも影響

人と人とのつながりが地域社会にもたらす効果

◆ポピュレーションヘルス

- ・感染症への予防行動など

◆コミュニティ・セーフティ

- ・住民間の信頼感、暴力は許されないとする抑制効果など

◆経済的豊かさ

- ・雇用、経済的な機会及び情報の共有、失業からの回復など

◆災害への備えとレジリエンス

- ・訓練を受けた専門家より近くにいる隣人が最初に対応、知識と資源を隣人と共有など

◆市民参画

- ・「公共の関心ごとに対処するための行動」レベルの向上、政策やプログラムへの住民意思の反映による市民参画の継続と拡大

2 実態把握

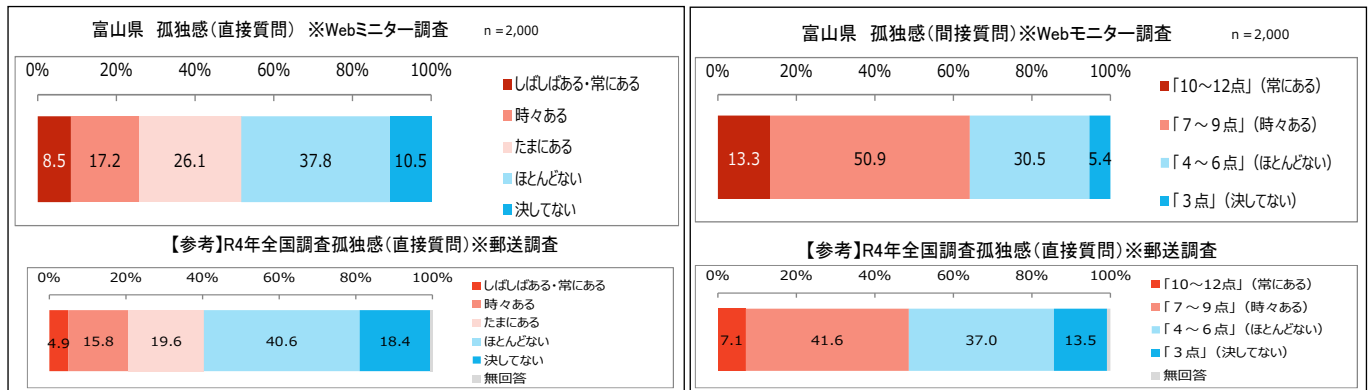
(1) 県民の孤独・孤立実態調査

R5.10に、県内における孤独・孤立の実態を把握し、関連行政諸施策の基礎資料を得ることを目的として、富山県に居住する16歳以上の個人を対象とした調査（人々のつながりに関する基礎調査）を実施

① 孤独の状況について

直接質問を全国調査（R4実施）と比較した結果、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、本県の方がやや上回る。（県調査8.5%、全国調査4.9%）

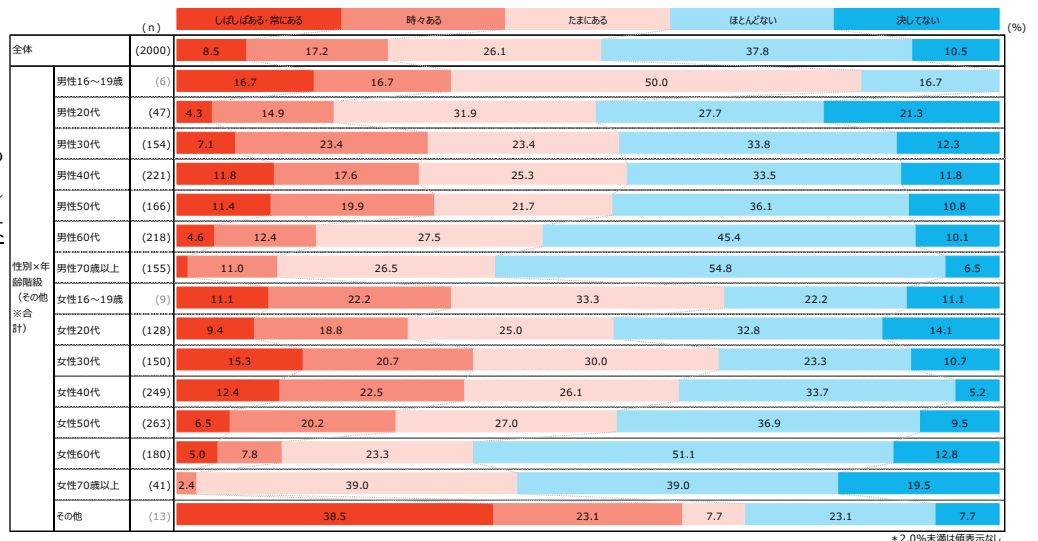
また、間接質問の結果、常に孤独を感じる人の割合についても、本県の方がやや上回る。（県調査13.3%、全国調査7.1%）



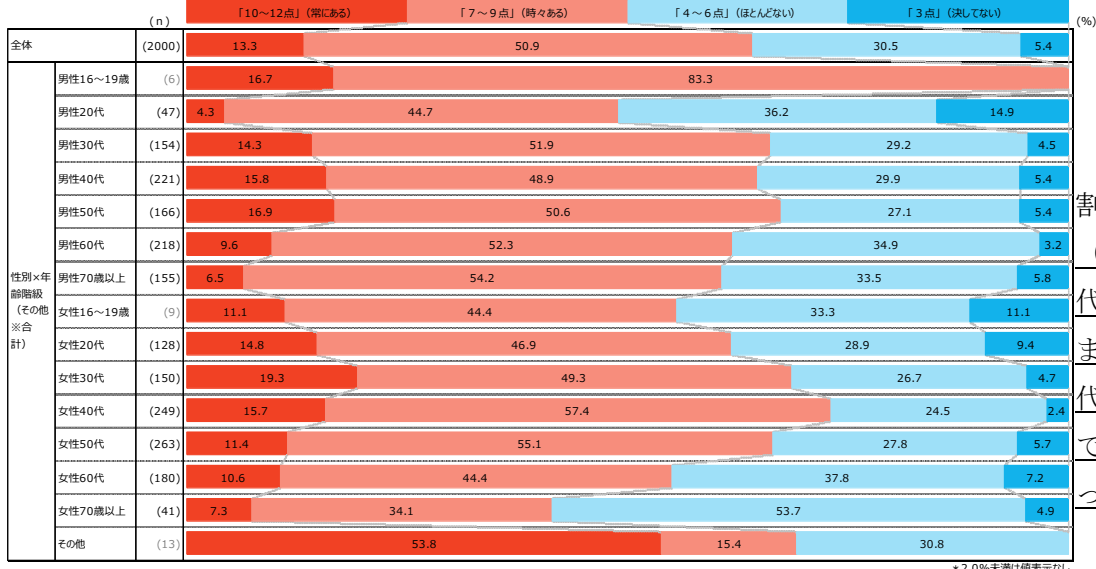
② 孤独の状況・性年代別について

直接質問の結果、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、男性では40代（11.8%）、女性では30代（15.3%）が最も多い。

孤独感(直接質問)【性年代別】



孤独感(間接質問)【性年代別】



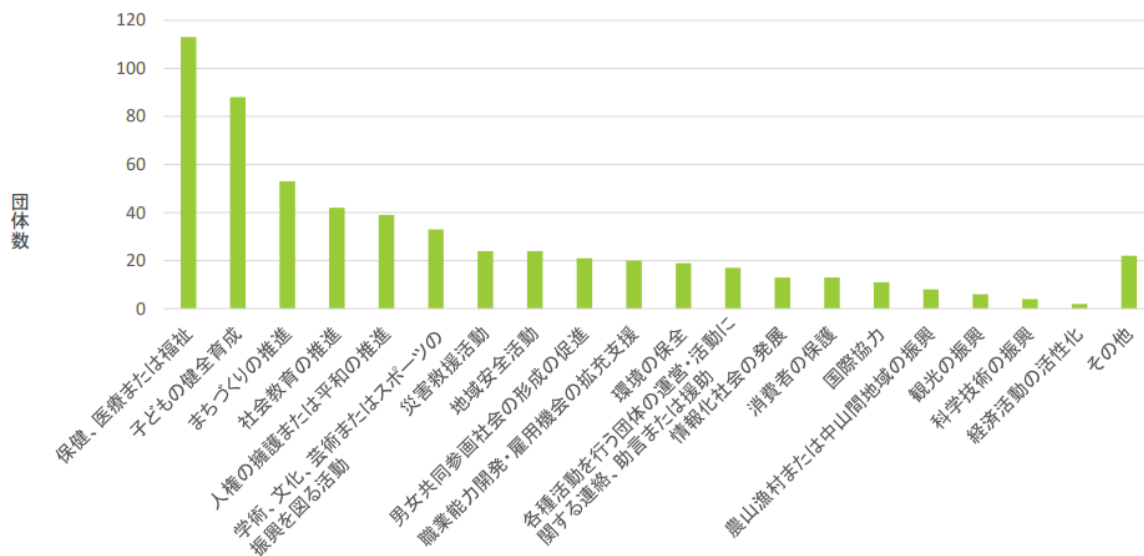
また、間接質問の結果、常に孤独を感じる人の割合は、男性では50代（16.9%）、女性では30代（19.3%）が最も多い。

また、男性は30代～50代、女性は20代～40代で孤独感が高い傾向となっている。

(2) 孤独・孤立対策（人とのつながり）に資する活動についての調査

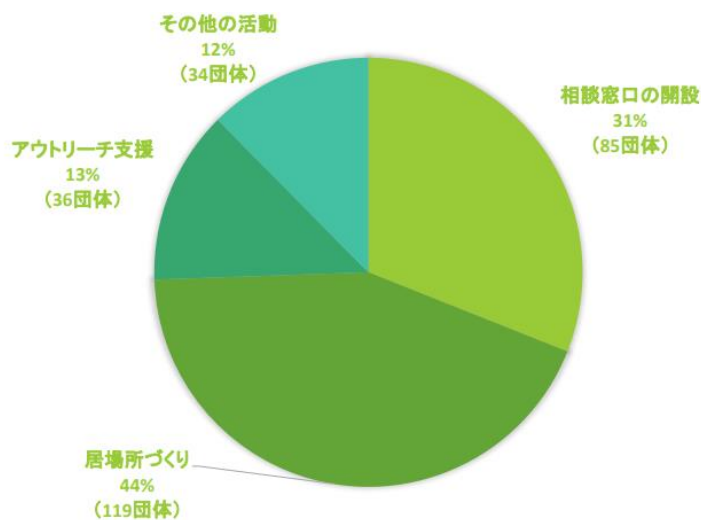
R5. 11～R5. 12 に調査を実施。県内 NPO 法人、社会福祉法人、こども食堂、地域包括支援センター等約 700 団体のうち、193 団体から回答を得た。

① 活動の種別について



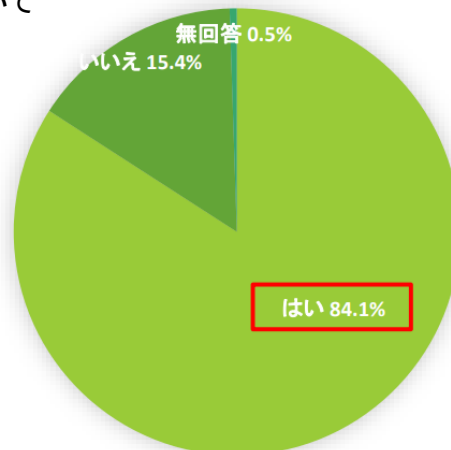
② 活動の内容について

孤独・孤立対策に資する活動として
約 4 割（119 団体）が「居場所づくり」、
約 3 割（85 団体）が「相談窓口の設置」、
約 1 割（36 団体）がアウトリーチ支援
を実施している。



③ 孤独・孤立にかかる問題に取り組む必要性について

8 割超が「孤独・孤立にかかる問題に取り組む
必要性を感じる」と回答



3 支援情報掲載

県内に人とのつながりを作る幅広い取組みを行う支援団体を一覧にまとめ、県ホームページに掲載し、お悩みに応じて情報の絞り込み検索ができる。(R6. 11. 15 時点で 59 団体)

R6.2 に、今後、孤独・孤立対策（人とのつながりに資する活動を含む）に取り組む団体の方々と連携し、孤独・孤立対策を進めるため、「富山県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」を設立する取組みの一環として「富山県孤独・孤立対策シンポジウム」を開催



5 地方版プラットフォームの構築（地域の関係者の連携・協働の推進）

(1)「富山県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」の設置

R6.10に、孤独・孤立対策に取り組む多様なNPO等支援組織間の連携及び官民連携を強化することにより、孤独・孤立対策の取組の推進につなげることを目的に「富山県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」を設置。核となり企画・検討を行う幹事会と、広く県民に参加を呼びかけ、主として普及啓発を目的とした勉強会に参加するプラットフォームの2層構造とした。（会員は、R7.3.31時点で34団体）

(2) 幹事会の開催

(3) 勉強会の開催

第1回勉強会	R6.12.10	68人参加
--------	----------	-------

「孤独・孤立って何？-何が課題なのか-」

「孤独・孤立」の予防と心の健康づくり-「共感」を大事に-

「つながりサポーター養成講座」

「富山県の女性の孤独・孤立」